

細菌検査の平板培養の培地上のコロニーを集計・解析・診断できる装置



現在、細菌培養の培地上のコロニー数のカウント、コロニーの観察(発育形態、色調、サイズ、携帯、辺縁性状など)と、それに基づく菌種の予測判定は、細菌検査技師が目視で行っている。

しかし、それらは煩雑であり、菌種の判定には経験が必要である。

血液培養検査では、発育の判定を行う装置が使用され、一般化している。平板培地でも、発育を検知する装置はすでに開発されているようであるが、一般化はしていない。

- こうした業務を自動で行える様にしたい。
- 次世代自動車の自動運転に用いられるような画像認識技術を用いて、コロニーを確認、認識し、コロニー数を算出する。
- これに加えて、AIを活用してコロニーの特徴を学習させ、コロニーから予測される菌種がわかるようにできる装置の開発を期待する。